

会

報

社団法人 日本病理学会  
 〒113-0033  
 東京都文京区本郷2-40-9  
 ニュー赤門ビル4F  
 TEL: 03-5684-6886  
 FAX: 03-5684-6936  
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp  
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第240号

平成20年(2008年)1月刊

## 1. 理事会および総会

平成19年12月5日(第53回秋期特別総会の前日)に江戸川区総合区民ホール(タワーホール船堀)にて理事会を、12月6日には同所にて総会を開催した。これらの理事会、総会では、理事長報告、各種委員会委員長報告を行った。

協議事項としては、総会では、平成20/21年度役員を選任、平成20年度事業計画並びに収支予算、第55回(平成21年度)秋期特別総会会長および第99回(平成22年度)総会会長について協議し、それぞれ原案のとおり決定した。

理事会では、第98回(平成21年度)総会宿題報告担当者、平成20年度秋期学術集会シンポジウム演題、病理診断シリーズの講演者、第8回(平成20年度)海外病理学者・研究者の招聘、第7回(平成19年度前期)海外病理学会参加支援者、第9回海外派遣および英国病理学会との交流派遣者、平成20年度名誉会員有資格者、平成19年度上期新入会員、をそれぞれ協議して決定した。

## 2. 学術集会

### (1) 第53回(平成19年度)秋期特別総会

東京医科大学を世話機関として向井清会長のもとで、平成19年12月6日(木)～7日(金)の2日間、タワーホール船堀にて開催された。要望講演1題、学術研究賞演説(A演説)8題、B演説2題、シンポジウム1件4題、病理診断シリーズ2題、特別企画1件2題の発表と討論が行われた。会期の前後には技術講習会、IAP病理学教育シンポジウム・スライドセミナーなどが開かれた。

(2) 今後の予定されている学術集会は、以下のとおりである。

#### 1) 第97回(平成20年度)総会

世話機関: 金沢大学

会長: 中沼安二教授

会期: 平成20年5月15日(木)～17日(土)

会場: 石川県立音楽堂他

#### 2) 第54回(平成20年度)秋期特別総会

世話機関: 愛媛大学

会長: 植田規史教授

会期: 平成20年11月20日(木)～21日(金)

会場: 松山市総合コミュニティーセンター

#### 3) 第98回(平成21年度)総会

世話機関: 京都大学

会長: 真鍋俊明教授

会期: 平成21年5月1日(金)～3日(日)

会場: 京都国際会館

#### 4) 第55回(平成21年度)秋期特別総会

世話機関: 防衛医科大学校

会長: 松原 修教授

会期および会場は未定

#### 5) 第99回(平成22年度)総会

世話機関: 順天堂大学

会長: 樋野興夫教授

会期および会場は未定

## 3. 常任理事会報告(理事会 総会報告要旨)

常任理事会より、春期総会以降の会務全般と各委員会活動の主要事項について報告する。

### (1) 長村義之理事長

① 平成19年11月30日現在の病理学会会員数は、学術評議員1,567名、一般会員2,093名、名誉会員256名、学生会員1名の3,917名である。賛助会員4名、機関会員84名である。

② 病理学会HPに“病理学会カレンダー”として支部会、セミナーの年間スケジュール一覧を掲載する。会務報告も適宜掲載する。

③ 日本がん治療認定医機構より、連携・協力および関連学会連絡委員会への参加の有無について問い合わせがあったので、いずれも有りと回答した。また、認定制度の適用申請については本学会からは申請しないと回答した。

また、8月28日の第1回関連学会連絡委員会に黒田理事が出席した。同機構の細則にある「基本領域の学会」に日本麻酔学会と日本病理学会が追加されたと報告された。

④ 「日母分類改定のためのワーキンググループ」の病理

側委員として坂本穆彦教授と森谷卓也教授を推薦した。婦人科細胞診クラス分類は廃止の方向である。

- ⑤ 教育委員会ワークショップのアウトカムを基盤として「病理医育成に関する要望書」を文部科学省医学教育課長へ提出することとし、準備中である。また、厚労省向けの要望書については、企画委員会、認定医精度運営委員会などと相談し作成することとした。
- ⑥ がん対策基本法、がん対策推進基本計画などについては、日本臨床細胞学会と協同で、支部を通して各都道府県に「病理診断、細胞診断の重要性」を強調した要望書を提出し、がん医療における病理医の役割を明確にすることとした。
- ⑦ 支部委員会としては、下記のことを検討した。
  - 1) 各地域のがん対策推進計画に病理診断・細胞診の重要性を主張する内容を盛り込むよう検討する。
  - 2) 病理業務量の見直しについて医療業務委員会での目的などの基本的な方針を示してもらった上で引き続き検討する。また、現在の認定施設・登録施設の調査方法についても医療業務委員会で検討していただくことが望ましい。
  - 3) 病理分野への新しい人材の加入状況を調査する。
- ⑧ 日本学術会議公開講演会「医療関連死を考える一解剖に基づく新たな死因究明制度」は平成20年3月21日に東京大学医学部大講堂で開催される。
- ⑨ 国際交流委員会では、学会参加支援2名、国内学会への招聘1件、海外派遣2名、英国との学术交流2名を決定した。
- ⑩ 逝去された妹尾左知丸名誉会員より日本病理学会会誌のバックナンバーが寄贈された。
- ⑪ 2014年に向けてWHO ICD11を策定中であるが、これに病理学会からも委員を出せるよう厚生労働省担当部署に要望した。
- ⑫ 現在定例の税務調査に対応中である。
- ⑬ 新公益社団法人申請については、2年後くらいを目途に準備を進めている。
- (2) 深山正久副理事長（企画委員会）
  - ① 若手のリクルートに関する活動としては、若手医師確保に関する小委員会（大橋健一委員長）のもとで、後期研修プログラムの情報を集めた小冊子を作る計画や、医学生ためのレジナビフェアへの参加をおこなっている。
  - ② 臨床医学との対話促進の意味で、「診断病理サマーフェスト：病理と臨床の対話」を開催した。第1回は2007年8月11・12日東京大学にて、婦人科病理を中心に行なった。約200名の参加があり、病理40%、婦人科40%、放射線科20%ということで、臨

床との対話という意味では成功であった。第2回は京都にて「肺の臨床・画像・病理」をテーマに8月23日・24日開催される。第3回のテーマは「軟部腫瘍」ということで計画している。

- ③ 日本病理学会創立百周年記念事業として実行委員会を立ち上げた。委員長：森 亘先生、委員長代理：町並陸生先生、副委員長：秦 順一先生と森 茂郎先生、事務局長：深山正久を決定した。また、理事経験者に発起人になっていただいた。
- ④ 公益法人制度の改定に伴い、新公益法人への移行を申請する必要がある、これを機会に病理学会機構改革の必要性の有無、学術評議員会の在り方、専門医部会との関係、会費の見直し等を検討することとした。2年後くらいに新公益法人へ申請したい。
- ⑤ 人材育成と地方基幹病院への配置を目的に「病理専門家養成プログラム」として、後期研修医枠（全国で20～50名 4年間）の財政的援助を厚生労働省に要望することとした。
- ⑥ 市民公開講座への取り組みとして、プランニングの委員会立ち上げを検討している。
- (3) 岡田保典副理事長・常任理事（学術委員会・研究推進委員会・編集委員会）
  - ① 学術委員会
    - i. 宿題報告の選考を行い、深山正久（東京大学）、笹野公伸（東北大学）、笹栗靖之（産業医科大学）の各学術評議員に決定した。
    - ii. 平成20年度秋期学術集会のシンポジウムのテーマとして「プロテオームと病理学の接点」に決定した。
    - iii. 平成20年度秋期学術集会の病理診断シリーズとして「皮膚付属器の病理診断（仮題）：清水道生（埼玉医科大学）」と「悪性リンパ腫の診断（仮題）：阿部正文（福島県立医科大学）」に決定した。
    - iv. 宿題報告の推薦、応募の締切りを来年度は8月31日とすることとした。
    - v. 市民公開講座の件では、小委員会を設けて検討することにする。
    - vi. Pathology Internationalのオンライン化については、刊行費の削減という意味で検討を始めた。会員には基本的にはオンラインにて配信し紙媒体は希望者に別料金にて配布するか、あるいはオンラインオンリーにするか、これから検討していく。科研費への申請は行わなかった。
  - ② 研究推進委員会
    - i. 第4回病理学会カンファレンスを、平成19年7月27日・28日に旭川医大小川勝洋教授を世話人に開催した。テーマは「肝臓疾患の現状と課題」であっ

た。第5回病理学会カンファレンスは、平成20年8月1日・2日に国立成育医療センター梅澤明弘部長を世話人に湘南国際村にて開催する。テーマは「がんと幹細胞」である。一部市民に公開できないかを検討中である。

- ii. 第7回技術講習会を、平成19年12月5日（秋期特別総会前日）に国立がんセンター東病院落合淳志部長を世話人に開催した。第8回技術講習会は平成20年11月19日（秋期特別総会前日）に東京医科歯科大学北川昌伸教授を世話人に開催する。この技術講習会の受講を専門医の受験資格として義務付けるか、検討を始めた。

### ③ 編集委員会

- i. Pathology International の2006年の投稿数は260編程度で例年並みである。採択率は約50%である。2006年のインパクトファクターは1.108であった。
- ii. 「診断病理」は年間90編を掲載した。オンライン化について検討を始めた。
- iii. 剖検輯報は、第49輯を作成中である。

### (4) 黒田 誠常任理事（病理専門医部会・口腔病理部会）

#### ① 病理専門医制度運営委員会

- i. 平成20年度病理専門医試験は、平成20年7月26日・27日に東京医科歯科大学を会場に実施予定である。
- ii. 平成19年度試験からは、出願時（4月末日）に死体解剖資格及び細胞診講習会受講証明書が出願時必要となっている。
- iii. 平成20年の細胞診講習会は3月22日・23日に、日本大学にて実施予定である。
- iv. 平成18年度より大学病院（分院を含む）も研修施設（認定施設あるいは登録施設）として認定審査を行なっている。新しい分院については、開設の年は実績がないため、申請を受け付けることはできない。
- v. 第97回総会（金沢）での病理診断講習会の実施内容は決定済みである。総会の内容にあわせて修正されている。

#### ② 医療業務委員会

- i. コンサルテーション小委員会  
依頼用紙と報告用紙を紙媒体でなく、メール添付にてやりとりすることが検討されている。
- ii. 社会保険小委員会  
平成20年度の診療報酬改定では、病理診断が検体検査から独立することが、11月16日開催の中医協にて承認された。
- iii. 剖検・病理技術小委員会

IHE-J 協会（医療情報の国際標準化の協会）の正式に会員になることになった。

ホルマリン規制改正に対してのマニュアルを、日本医大千葉北総病院の技師清水秀樹氏が作成したので、適切な形で病理学会ホームページに掲載する予定である。

病理医の業務量の調査を支部委員会と協同で継続して行なっていくこととした。

#### iv. 精度管理小委員会

病理診断依頼書用紙のガイドライン作成は終了し、医療業務委員会にて検討中である。病理診断報告書様式のガイドラインの作成を継続して検討中である。

#### v. 癌取扱い規約小委員会

診断入力ソフトの作成を試みている。

### ③ 口腔病理部会

口腔病理専門医研修要綱を検討中である。医科と同様に口腔病理専門医部会を検討中である。

## 4. 各種委員会の活動状況

春期総会以降の各委員会活動につき報告する（上記常任理事会報告以外）。

### (1) 広報委員会（坂本穆彦委員長）

① 病理学会や関連研究会等がおこなっているセミナー等の一覧を病理学会ホームページに掲載することとした。「病理カレンダー」の名称で作成の予定である。掲載は各支部からの集会開催の他、専門医制度の生涯学習単位に認められている程度の集会を考えている。

② 会務報告をホームページに掲載することとした。

### (2) 教育委員会（堤 寛委員長）

① 病理各論コア画像のブラッシュアップを、若手（研修医レベル）の意見も取り入れてすすめることにした。

② 平成20年春の病理学会時の学生ポスター募集を支援する。

③ CPCレポートについて、レポート集を作成している施設があるので、広く声をかけて収集したい。

④ 来年度の教育ワークショップは、「病理各論教育」をテーマに開催する方向である。

## 5. 特別報告

下記の案件につき、理事長より特別報告があった。

### (1) 診療標榜科 病理診断科について

医道審議会医道分科会診療科名標榜委員会において、「病

理診断科」の標榜が承認された（平成19年9月21日）ことの報告があった。今後の予定としては、平成20年4月1日を日途に政令・省令の整備がなされることになっている。これに関連しては病院の病理診断部門においては臨床科と連携しての患者サービスが求められる。また、個人の開業や登録衛生検査所病理についても、今後の課題となっている。

#### (2) 平成20年度診療報酬改定について

平成20年度の診療報酬改定において、「病理診断」が従来の第3部第2節病理学的検査料から独立して、第13部(仮)として新設されることが中医協基本問題小委員会にて了承されたと報告された。これに関連しては、医療業務委員会社会保険小委員会の努力により、病理の重要性を度々訴え、内保連の最重要提案3項目の一つになった。さらに中医協委員への折衝や舛添厚労大臣との面談も経て、11月16日の中医協基本問題小委員会にて了承されるにいった。今後は社会保障審議会による改定の基本方針に基づいての実務作業(中医協)に入る。さらに、改定案に対するパブリックコメントを求めた後、厚生労働大臣に対して改定案の答申がなされることになっている。来年4月からの施行である。

このほか、診療報酬改定に関しては、合計10項目ほどの要望もしている。

#### (3) 死因究明のための事故調査委員会について

「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する課題と検討の方向性」についての厚生労働省試案が平成19年3月9日に公表され、これに関しての意見募集があった。病理学会としては、基本原則として次のとおりの意見を提出した。1) 診療関連死は、すべて速やかに調査機関に届出を行い、医療過誤死である場合のみ、調査機関から異状死として警察に届ける。2) 診療関連死のうち医療事故死、過誤死の疑いのあるものは、解剖(原則として病理解剖)に基づく調査を行なう。3) 調査機関の報告書を懇切に遺族に解説する医学アドバイザーを配置する。4) 調査機関の中央組織として、事例収集・分析センターを設置し、再発防止のための提言を行なう。

「診療行為に関連した死亡に係わる死因究明等のあり方に関する検討会」は8月までに7回開催され、10月17日には第二次試案が出された。また、11月30日には自民党から「診療行為に係わる死因究明制度等について(案)」が公表された。

病理学会ではこれに関連して、病理学会認定施設・登録施設に対しアンケートを行なった。

それによると、新制度への参加については61%、臨床立会医の対応可能(予想)31%との結果であった。また、一施設あたり解剖可能な件数/年は2.5件、当番可能な日数/月4.1日であり、他施設への出向可能62/205施設であった。

今後は、解剖への財政基盤や病理医の増加、育成・教育など問題点を検討し、厚生労働省に要望していく必要がある。

この3案件が歩調を合わせて進んでいることは極めて重要と考える。

## 6. 平成20年度/21年度役員選任の件

平成20年度/21年度の役員(理事・監事)は、以下のとおり選任された。なお、就任日は、平成20年4月1日からとする。

### ○理事: 19名(ABC順)

|     |    |     |
|-----|----|-----|
| 理事長 | 長村 | 義之  |
| 理事  | 青笹 | 克之  |
| 理事  | 深山 | 正久  |
| 理事  | 井内 | 康輝  |
| 理事  | 覚道 | 健一  |
| 理事  | 黒田 | 誠   |
| 理事  | 真鍋 | 俊明  |
| 理事  | 松原 | 修   |
| 理事  | 本山 | 悌一  |
| 理事  | 向井 | 清   |
| 理事  | 根本 | 則道  |
| 理事  | 岡田 | 保典  |
| 理事  | 坂本 | 穆彦  |
| 理事  | 佐藤 | 昇志  |
| 理事  | 白石 | 泰三  |
| 理事  | 居石 | 克夫  |
| 理事  | 寺田 | 信行  |
| 理事  | 上田 | 真喜子 |
| 理事  | 山口 | 朗   |

### ○監事: 2名(ABC順)

|    |    |    |
|----|----|----|
| 監事 | 石原 | 得博 |
| 監事 | 太田 | 秀一 |

### ○支部長(兼務): 7名(地区順)

|      |    |    |
|------|----|----|
| 北海道  | 佐藤 | 昇志 |
| 東北   | 本山 | 悌一 |
| 関東   | 根本 | 則道 |
| 中部   | 白石 | 泰三 |
| 近畿   | 寺田 | 信行 |
| 中国四国 | 井内 | 康輝 |
| 九州沖縄 | 居石 | 克夫 |

## 7. 平成20年度事業計画並びに収支予算について

社団法人日本病理学会平成20年度事業計画並びに収支

予算は、今総会において以下のとおり決定した。

### ○平成 20 年度事業計画

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

〔事業の概要〕

#### I. 学術集会，研究会等の開催

##### 1. 学術集会の開催

- (1) 第 97 回日本病理学会総会(於金沢・中沼安二会長)
- (2) 第 54 回日本病理学会秋期特別総会(於松山・植田規史会長)

##### 2. 研究会，講習会等の開催

- (1) 第 5 回日本病理学会カンファレンス
- (2) 細胞診講習会
- (3) 病理診断講習会
- (4) 技術講習会
- (5) 各支部における学術・研究集会
- (6) 第 2 回診断病理サマーフェスト

##### 3. 公開講座・シンポジウムの開催

#### II. 学会誌，学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行(第 97 巻第 1～2 号)
2. 「Pathology International」の発行(Vol. 58 4～12, Vol. 59 1～3)
3. 「診断病理」の発行(第 25 巻第 2～4 号，第 26 巻第 1 号)
4. 「日本病理学会会報」の発行(第 243～254 号)
5. 「病理専門医部会報」の発行(2008 年第 2～4 号，2009 年第 1 号)

#### III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第 49 輯(平成 18 年症例)
2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
3. 剖検記録データベースの再構築

#### IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
2. 病理専門医の広告
3. 研修手帳の実施
4. 研修施設の認定および資格の更新

#### V. 学術団体との協力，連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援
2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
3. 海外病理学会との交流
  - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣，学術交流
  - (2) ドイツ病理学会との学術交流

#### VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学賞(宿題報告)の授与
2. 日本病理学会学術奨励賞の授与
3. 日本病理学会学術研究賞(A 演説)の授与

#### 4. 会員の海外派遣

#### 5. 病理学卒前教育の充実

#### 6. 病理診断コンサルテーションシステムの充実

#### 7. インターネットホームページの充実

#### 8. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施

#### 9. 病理専門医制度運営，医療業務，学術・研究等の各種委員会の開催

### ○平成 20 年度収支予算

学術集会の補助金を，春期 100 万円から 300 万円へ，秋期 50 万円から 100 万円に増額することとした。

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位 円)

| 科 目                | 予 算 額              | 前年度予算額             | 増 減                |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| <b>I. 収入の部</b>     |                    |                    |                    |
| <b>1. 基本財産運用収入</b> | <b>17,000</b>      | <b>1,000</b>       | <b>16,000</b>      |
| <b>2. 会費収入</b>     | <b>72,680,000</b>  | <b>73,430,000</b>  | <b>△ 750,000</b>   |
| 正会員・学術評議員会費        | 30,000,000         | 31,000,000         | △ 1,000,000        |
| 同 終身会費             | 3,000,000          | 3,000,000          | 0                  |
| 同 一般会員会費           | 27,000,000         | 27,000,000         | 0                  |
| 学生会員会費             | 30,000             | 30,000             | 0                  |
| 賛助会員会費             | 250,000            | 250,000            | 0                  |
| 機関会員会費             | 400,000            | 450,000            | △ 50,000           |
| 病理専門医部会費           | 12,000,000         | 11,700,000         | 300,000            |
| <b>3. 事業収入</b>     | <b>120,050,000</b> | <b>110,500,000</b> | <b>9,550,000</b>   |
| 学術集会収入             | 80,000,000         | 70,000,000         | 10,000,000         |
| 論文掲載料収入            | 850,000            | 3,000,000          | △ 2,150,000        |
| 広告料収入              | 700,000            | 1,000,000          | △ 300,000          |
| 刊行物発行収入            | 15,000,000         | 15,000,000         | 0                  |
| 専門医制度収入            | 15,000,000         | 15,000,000         | 0                  |
| 病理専門医部会収入          | 4,000,000          | 4,000,000          | 0                  |
| 講習会等収入             | 2,500,000          | 500,000            | 2,000,000          |
| 賠償責任保険事務費収入        | 2,000,000          | 2,000,000          | 0                  |
| <b>4. 補助金収入</b>    | <b>5,000,000</b>   | <b>11,000,000</b>  | <b>△ 6,000,000</b> |
| <b>5. 繰入金収入</b>    | <b>2,600,000</b>   | <b>2,500,000</b>   | <b>100,000</b>     |
| 学術医療基金繰入金収入        | 2,600,000          | 2,500,000          | 100,000            |
| <b>6. 雑収入</b>      | <b>920,000</b>     | <b>1,505,000</b>   | <b>△ 585,000</b>   |
| 受取利息収入             | 120,000            | 5,000              | 115,000            |
| 雑収入                | 800,000            | 1,500,000          | △ 700,000          |
| <b>当期収入合計 (A)</b>  | <b>201,267,000</b> | <b>198,936,000</b> | <b>2,331,000</b>   |
| <b>前期繰越収支差額</b>    | <b>43,564,000</b>  | <b>39,758,000</b>  | <b>3,806,000</b>   |
| <b>収 入 合 計 (B)</b> | <b>244,831,000</b> | <b>238,694,000</b> | <b>6,137,000</b>   |

(単位 円)

| 科 目                   | 予 算 額              | 前年度予算額             | 増 減                |
|-----------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| <b>II. 支出の部</b>       |                    |                    |                    |
| <b>1. 事業支出</b>        | <b>162,000,000</b> | <b>157,800,000</b> | <b>4,200,000</b>   |
| 学術集会経費                | 84,500,000         | 71,800,000         | 12,700,000         |
| 学会誌発行経費               | 32,000,000         | 37,000,000         | △ 5,000,000        |
| 会報発行経費                | 2,500,000          | 3,500,000          | △ 1,000,000        |
| 剖検報刊行経費               | 11,000,000         | 14,000,000         | △ 3,000,000        |
| 専門医制度運営経費             | 9,000,000          | 8,500,000          | 500,000            |
| 病理専門医部会経費             | 8,000,000          | 8,000,000          | 0                  |
| 支部運営経費                | 6,000,000          | 6,000,000          | 0                  |
| 学術奨励等経費               | 4,500,000          | 4,500,000          | 0                  |
| 講習会等経費                | 2,000,000          | 1,000,000          | 1,000,000          |
| 各種委員会経費               | 2,500,000          | 3,500,000          | △ 1,000,000        |
| <b>2. 管理費</b>         | <b>32,680,000</b>  | <b>32,030,000</b>  | <b>650,000</b>     |
| 人件費                   | 15,000,000         | 15,000,000         | 0                  |
| 福利厚生費                 | 1,800,000          | 1,500,000          | 300,000            |
| 交通費                   | 350,000            | 500,000            | △ 150,000          |
| 通信運搬費                 | 2,500,000          | 3,000,000          | △ 500,000          |
| 会議費                   | 1,000,000          | 1,500,000          | △ 500,000          |
| 印刷費                   | 2,000,000          | 2,000,000          | 0                  |
| 備品費                   | 200,000            | 200,000            | 0                  |
| 消耗品費                  | 400,000            | 400,000            | 0                  |
| 水道光熱費                 | 230,000            | 230,000            | 0                  |
| 賃借料                   | 2,600,000          | 2,600,000          | 0                  |
| 諸会費                   | 800,000            | 800,000            | 0                  |
| 補助費                   | 200,000            | 200,000            | 0                  |
| 修繕費                   | 100,000            | 100,000            | 0                  |
| 嘱託費                   | 2,000,000          | 1,500,000          | 500,000            |
| 租税公課(消費税等)            | 3,000,000          | 2,000,000          | 1,000,000          |
| 雑費                    | 500,000            | 500,000            | 0                  |
| <b>3. その他</b>         | <b>4,300,000</b>   | <b>4,300,000</b>   | <b>0</b>           |
| 退職給与引当預金支出            | 1,600,000          | 1,600,000          | 0                  |
| 学術医療基金引当預金<br>繰入支出他   | 2,700,000          | 2,700,000          | 0                  |
| <b>4. 予備費</b>         | <b>1,000,000</b>   | <b>1,000,000</b>   | <b>0</b>           |
| <b>当期支出合計 (C)</b>     | <b>199,980,000</b> | <b>195,130,000</b> | <b>4,850,000</b>   |
| <b>当期収支差額 (A-C)</b>   | <b>1,287,000</b>   | <b>3,806,000</b>   | <b>△ 2,519,000</b> |
| <b>次期繰越収支差額 (B-C)</b> | <b>44,851,000</b>  | <b>43,564,000</b>  | <b>1,287,000</b>   |

### 8. 第 55 回(平成 21 年度)秋期特別総会会長の選出について

第 55 回(平成 21 年度)秋期特別総会会長は、松原 修教授(防衛医科大学校)に決定した。

### 9. 第 99 回(平成 22 年度)総会会長の選出について

第 99 回(平成 22 年度)総会の会長は、樋野興夫教授(順

天堂大学)に決定した。

### 10. 第 98 回(平成 21 年度)総会宿題報告担当者等の決定について

- (1) 平成 21 年度宿題報告担当者は、深山正久(東京大学)、笹野公伸(東北大学)、岩崎 宏(福岡大学)の各学術評議員 3 名に決定した。
- (2) 平成 20 年度秋期学術集会シンポジウムのテーマは、「プロテオームと病理学の接点」に決定した。
- (3) 平成 20 年度病理診断シリーズ講演者は、阿部正文(福島県立医科大学)、清水道生(埼玉医科大学)の各学術評議員 2 名に決定した。

### 11. 会員の海外病理学会参加支援等について

今年度事業計画に係る「海外病理学者・研究者の招聘」および「会員の海外病理学会参加支援」等の各事業は、以下のとおり決定した。

- (1) 第 8 回(平成 20 年度)海外病理学者・研究者の招聘事業は、第 4 回婦人科病理講習会(アメリカから 1 名: 埼玉医科大学安田政実学術評議員担当)の 1 件。
- (2) 第 7 回(平成 19 年度前期)海外病理学会参加支援者は、加藤哲子(山形大学)、和仁洋治(倉敷中央病院)各会員の 2 名。
- (3) 第 9 回(平成 19 年度)海外派遣事業は、平林健一(東海大学)、中黒匡人(公立陶生病院)各会員 2 名
- (4) 英国病理学会学術集会参加推薦は、長谷川正規(名古屋大学)、堀田綾子(杏林大学)各会員 2 名

### 12. 平成 19 年度認定施設、登録施設(第 30 回)審査について

認定施設、登録施設としての新規の申請は、16 件、20 件であった。審査の結果、それぞれ 12 件、19 件が承認された。認定(登録)期間は、平成 19 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までである。

#### (1) 認定施設

| 認定番号 | 病 院 名                 |
|------|-----------------------|
| 1027 | 医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院       |
| 4081 | 静岡赤十字病院               |
| 4082 | 名古屋記念病院               |
| 4083 | 名古屋市立東市民病院            |
| 5082 | 独立行政法人労働者健康福祉機構神戸労災病院 |
| 5083 | 姫路赤十字病院               |
| 6044 | 総合病院岡山市立市民病院          |
| 6045 | 三豊総合病院                |

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 6046 | 財団法人永頼会松山市民病院         |
| 6047 | 高知赤十字病院               |
| 6048 | 高知医療センター              |
| 7040 | 独立行政法人労働者健康福祉機構熊本労災病院 |

## (2) 登録施設

登録番号 病院名

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 1031 | 総合病院伊達赤十字病院           |
| 1032 | 総合病院釧路赤十字病院           |
| 1033 | 特定医療法人北楡会札幌北楡病院       |
| 1034 | 医療法人社団北斗 北斗病院         |
| 3112 | 千葉県済生会習志野病院           |
| 3113 | 佐野厚生総合病院              |
| 3905 | 順天堂大学医学部附属練馬病院        |
| 4089 | 医療法人社団志聖会犬山中央病院       |
| 4098 | 安曇野赤十字病院              |
| 4099 | 国立長寿医療センター            |
| 4100 | 独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター  |
| 4111 | 福祉医療センター名古屋市厚生院附属病院   |
| 5083 | 阪南中央病院                |
| 5084 | 市立小野市民病院              |
| 5085 | 三木市立三木市民病院            |
| 6053 | 独立行政法人国立病院機構浜田医療センター  |
| 6054 | 独立行政法人労働者健康福祉機構山口労災病院 |
| 7059 | 独立行政法人国立病院機構大分医療センター  |
| 7060 | 社団法人鹿児島共済会南風病院        |

## 13. 平成19年度ドイツ派遣研究員(留学生)の募集について(公募のお知らせ)

社団法人日本病理学会は、本学会会員が国際的視野を養い病理学研究、診断業務の発展に貢献できるよう務めています。特に従来からイギリス、ドイツ両病理学会とは日本病理学会総会、英・独各学会総会、IAP 総会等の機会を通じて学術的交流が行われてきました。

このたび、このような中でさらに両学会の深い絆が築かれるようドイツ病理学会の配慮があって日本からの留学に際して、第3回目の奨学金が用意されました。

これを受けて、本学会国際交流委員会および理事会は、平成19年度の事業としてドイツ病理学会と若手病理専攻者の海外派遣研究員の交換事業を行うことにしました。まず留学希望者を下記の要領で募集いたします。既に留学、研修に関してドイツの大学/病院の病理学の研究室あるいは病理診断検査部門との連絡がとれている日本病理学会会員を対象とし、日本病理学会、国際交流委員会が交流、留学を斡旋する制度ではない事に十分ご留意下さい。

記

1. 留学先：ドイツの大学あるいは病院（上述のようにすでにドイツの大学、病院の研究室あるいは病理診断検査部門から留学、研修の許可がとれている者を対象とする）。
  2. 留学期間：平成20年夏以降からで期間未定（留学期間は1年間以上）。
  3. 応募資格：原則的として40歳未満（応募時）の継続して5年間以上会員資格のある日本病理学会会員。
  4. 募集人員：1名。
  5. 奨学金総額：20,000ユーロ。
  6. 応募締切：平成20年3月21日。
  7. 決定時期：平成20年5月。
  8. その他：
    - 国際交流委員会で候補者を選考し、理事会において決定いたします。
    - 応募にあたっては、別途、様式を用意してありますので、本学会事務局までお申し出ください。
    - 本件についてご質問がありましたら、本学会事務局もしくは国際交流委員長までお問い合わせください。
    - なお、ドイツ病理学会会員の受入れにつきましては、ドイツ病理学会が対象者を決定します。本学会から対象者に平成19年度予算で100万円が計上されません。
- 社団法人日本病理学会事務局：  
TEL：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936  
ホームページ：<http://jsp.umin.ac.jp/>  
国際交流委員長（笹野公伸）：  
TEL：022-717-7450 FAX：022-273-5976

## 14. 常任理事会報告(平成19年10月・11月)

### ◎第6回(平成19年10月24日(水))

1. 平成20年度診療報酬改定関係では、対外活動として厚生労働省・中医協委員等と頻りに面談したとの報告が長村理事長よりあった。(長村義之理事長、黒田誠病理専門医部会長、根本則道医療業務委員長、水口國雄病理診断体制専門委員会委員長、稲山嘉明社会保険小委員会委員長、佐々木毅社会保険小委員会委員)
2. 標榜科関連については9月21日の医道審議会にて「病理診断科」が承認された。これに関連して平成20年5月の総会時にシンポジウムを計画している。
3. 日本学術会議公開講演会「医療関連死を考える－解剖に基づく新たな死因究明制度」が、平成20年3月21日に、東京大学医学部大講堂にて行われる。経費については、法医学会との折半の予定である。

4. 9月23日に藤田保健衛生大学にて開催された教育ワークショップの報告書が提出された。今後は、これを踏まえて文部科学省への要望書の形とするよう教育委員会に依頼することとした。
5. 新公益社団法人の申請の流れなどについて、11月常任理事会時に顧問公認会計士の指導を受けることとした。
6. 100周年記念事業の発起人および実行委員の諾否については伺い中である。発起人の決定等については、12月の理事会・総会で報告し、記念事業についてのスケジュールを発表することとした。
7. 医療関連死の死因究明アンケート結果について、ホームページで公表することとした。
8. Pathology Internationalの直接出版費の科研費申請については、ブラックウエル社よりのディスカウムの提案もあり、担当者から岡田理事が話を聞くこととした。基本的にはディスカウムの提案を受け入れ、科研費の申請はしない方向である。
9. サマーフェストの小委員会については、当面現体制のままとする。第1回サマーフェストの報告が真鍋小委員長より提出されたので、ホームページへ掲載することとした。
10. 10月19日に開催された学術委員会にて、第98回総会(京都)時の宿題報告担当候補者3名が選考されたので、12月の理事会に諮ることとした。また、来年の秋期特別総会時のシンポジウムのテーマおよび病理診断シリーズの担当候補者2名も選考された。
11. 第99回総会および第55回秋期特別総会の会長選出については、応募書類についてプログラム推進委員会に諮り中である。
12. 診療関連死のモデル事業については、黒田理事より最近3ヶ月で1体しか事例がなく、なぜ数が減っているのか検討中であるとの報告があった。いわゆる事故調査委員会は2年半後からのスタートを目指しているとのことである。
13. 神経病理学会について  
専門医の導入を目指すアンケートをとっているとのことであるので、今後の対応について正式に申し入れをすることとした。

#### ◎第7回(平成19年11月19日(月))

1. 新公益法人認定申請については、顧問会計士である木村公認会計士の指導を受けた。今後の病理学会の対応を検討し、プロジェクトチームを作る必要があることが確認された。
2. 20/21年度役員選挙結果については、理事会を経て総会に諮ることとする。
3. 平成20年度診療報酬改定については、病理診断が検

体検査(第3部)から外れ、第13部(仮)として新設されることが中医協で認められた。

4. 教育ワークショップでの報告を踏まえて、井内康輝理事からの提案書の提示があったが、これを文科省向けと厚労省向けに分けて要望書の作成を依頼することとした。
5. 10月に本郷税務署の定例の税務調査を受けた。学術集会の資料を求められたので対応中である。
6. がん対策基本法およびがん対策推進基本計画における病理診断と細胞診断の重要性について、都道府県知事への要望書を臨床細胞学会と合同で作成した。がん拠点病院で常勤病理医がいない病院があるか等、支部レベルでの実態調査を行うこととする(支部委員会に依頼)。
7. 来年度以降サマーフェストについては、第2回は京都、第3回は東京で開催の予定である。
8. 100周年記念事業については、実行委員・発起人の依頼をし、諾否の返事をもらったところである。
9. 総会会長候補者については、応募書類をプログラム推進委員会にて審議し、理事長に意見が報告された。

## お知らせ

### 1. 日本学術会議公開講演会について(共催:日本病理学会 日本法医学会)

テーマ: 医療関連死を考えるー解剖に基づく新たな死因究明制度

日時: 平成20年3月21日(金) 13:00~17:00

会場: 東京大学医学部本館大講堂(文京区本郷)

申込み: <http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf/42-s-2-2.pdf>

### 2. 第2回横浜乳腺病理診断研究会について

日時: 平成20年3月1日(土)(要事前申し込み60名まで)

会場: 横浜市立大学附属市民総合医療センター

講演・診断講習: 印巻義英先生, 坂元吾偉先生

連絡先: 横浜市立大学市民総合医療センター 病理部  
担当 佐々木 毅

〒232-0024 横浜南区浦舟町4-57

TEL: 045-253-5323 FAX: 045-253-5383

E-mail: takesasa@yokohama-cu.ac.jp

### 3. 第8回(平成20年度)財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞候補者の募集について

募集期間:平成20年2月1日から4月末日(必着)

連絡先:(財)材料科学技術振興財団山崎貞一賞事務局

〒157-0067 世田谷区喜多見1-18-6

TEL:03-3415-2200 FAX:03-3415-5987

E-mail:prize@mst.or.jp

URL:<http://www.mst.or.jp/prize/>

### 4. 第3回トランスポーター研究会について

日時:2008年6月7日(土)~8日(日)

会場:京都大学薬学部

代表世話人:竹谷 豊(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部臨床栄養学分野)

事務局長:中川貴之(京都大・薬)

後援:(社)日本薬理学会,(社)日本薬学会

問い合わせ先:〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46-29

京都大学大学院薬学研究科生体機能解析学分野内

第3回トランスポーター研究会事務局長  
中川貴之

[jtra3@pharm.kyoto-u.ac.jp](mailto:jtra3@pharm.kyoto-u.ac.jp)

TEL:075-753-4549

FAX:075-753-4542

<http://www.jtra.jp/>

# 第2回 診断病理サマーフェスト

— 病理と臨床の対話 —

Diagnostic Pathology Summer Fest

Vol. 2

テーマ： 肺の臨床・画像・病理

開催日： 2008年 8月23日(土), 24日(日)

会場： 京都テルサ 西館1階「テルサホール」

(<http://www.kyoto-terrsa.or.jp/>)

対象： 病理医, 呼吸器科医(内科医・外科医), 放射線科医

参加費： 20,000円(研修医15,000円)

## August 23, 2008

- 12:00 肺の構造と画像  
病理(岡), 画像(高橋)
- 14:00 間質性肺炎  
臨床(菅), 画像(野間), 病理(小橋)
- 17:00 肺癌  
病理(薦), 画像(黒崎), 臨床(江口)
- 20:00 懇親会



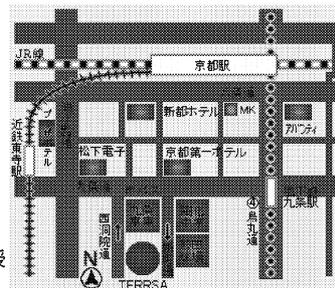
## August 24, 2008

- 8:30 薬剤性肺障害  
臨床(吾妻), 画像(酒井), 病理(福田)
- 11:00 症例検討
- 12:20 [終了]

この会は、病理と臨床の対話を行なおうとするものです。お互いの対話によって理解し合い、明日の臨床に役立てることを目的としています。臨床医は病理を、病理医は臨床を学び、両者を結びつけて理解します。病理医のみならず、呼吸器科医(内科医・外科医)、放射線科医の先生方も是非ご参加下さい。

### ◎講師

- 岡 輝明 関東中央病院 臨床検査科・病理科 部長  
高橋 雅士 滋賀医科大学放射線医学講座 准教授  
菅 守隆 済生会熊本病院 呼吸器センター 部長  
野間 恵之 天理よろづ相談所病院 放射線科 副部長  
小橋 陽一郎 天理よろづ相談所病院 病理 主任研究員  
薦 幸治 国立がんセンター臨床検査部病理  
黒崎 敦子 虎ノ門病院 放射線診断科 前部長  
江口 研二 東海大学医学部 腫瘍内科 教授  
吾妻 安良太 日本医科大学 呼吸器感染腫瘍内科 准教授  
酒井 文和 埼玉医科大学 国際医療センター画像診断科 教授  
福田 悠 日本医科大学 解析人体病理学 教授  
(敬称略, 講演順)



[会場周辺地図]

主催：日本病理学会

## 第2回 診断病理サマーフェスト —病理と臨床の対話—

8月23日（土）

11:10 受け付け  
11:50 事務連絡

◎肺組織の取扱と正常構造

12:00 病理（岡 輝明）

◎胸部画像（X-P, CT）の基礎  
—小葉からみた読影方法

13:00 画像（高橋 雅士）

◎間質性肺炎

14:00 臨床（菅 守隆）  
画像（野間恵之）  
病理（小橋陽一郎）

◎肺癌

17:00 病理（蔦 幸治）  
画像（黒崎敦子）  
臨床（江口研二）

20:00 懇親会（東館3F大会議室）

8月24日（日）

◎薬剤性肺障害

8:30 臨床（吾妻安良太）  
画像（酒井文和）  
病理（福田 悠）

◎症例検討

11:00～12:20

参加希望の方は、氏名、懇親会参加の有無、所属(学会、施設)、住所、電話番号、Fax、E-mailアドレスを明記のうえ下記に申し込み下さい。先着200名まで受け付けます。受付後参加費振込口座(郵便振替)をお知らせいたします。研修医は所属長の署名による証明が必要です(同時に証明書を郵送またはFAXして下さい)。

### 参加申込先： 社団法人 日本病理学会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F

TEL 03-5684-6886 E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

**FAX : 03-5684-6936**

|               |                 |
|---------------|-----------------|
| フリガナ<br>氏名    | 懇親会参加予定(する・しない) |
| 所属学会          |                 |
| 所属施設・<br>部署   |                 |
| 所属住所<br>(連絡先) | 〒               |
| 電話            |                 |
| FAX           |                 |
| E-mail        |                 |